

会 議 録

会 議 名	第56回野田市市民活動支援センター運営協議会
議題及び議題毎の公開又は非公開の別	1 議案 (1) 令和7年度市民活動支援センターの事業計画（案）について（公開） (2) 市制施行75周年記念市民アイデア事業について（公開） 2 報告事項 (1) 令和6年度市民活動支援センターの登録状況（令和7年1月1日現在）について（公開） (2) 令和6年度市民活動支援センターの利用状況（令和6年10月～12月）について（公開） (3) 第6回こまめカフェの開催について（公開） (4) 学習会（助成金・パソコン）の開催結果について（公開） (5) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2024」第7回市民活動元気アップふえすたの開催結果について（公開）
日 時	令和7年1月17日（金）午後2時から午後4時10分まで
場 所	野田市役所議会棟4階 委員会室
出席者氏名	会 長 竹澤 勇司 副 会 長 立山 喜弘 委 員 岩井 勝治、北倉 恵美子、辻 朝子、 神山 憲次郎、矢作 勝美 事務局等 市民生活部長 宮澤 一弥 市民生活課長 須賀 良平 市民生活課長補佐 岡田 敦子

	市民生活課コミュニティ係長 高梨 清美 市民生活課コミュニティ係主査 山田 典生 支援補助員 向佐 美知子 コーディネーター 荒井 ハツヨ コーディネーター 渡邊 勝男 コーディネーター 松本 貴美江
欠席委員氏名	加藤 眞智子、芝田 栄太郎、名代 ちよ子
傍聴者	無し
議 事	第56回野田市市民活動支援センター運営協議会の会議の概要は、次のとおりである。
1 開会 事務局から開会を宣言。 会議の成立について報告。 会議録作成のため、録音をすることについて了解を得た。 2 市民生活部長挨拶 宮澤市民生活部長挨拶 3 議事 議長（竹澤会長） 報告事項から審議をすることについて了承を求めた。 各委員 特になし 報告事項(1) 令和6年度市民活動支援センターの登録状況（令和7年1月1日現在）について （資料 報告 1）－1～3） 報告事項(2) 令和6年度市民活動支援センターの利用状況（令和6年10月～12月）について （資料 報告 2）－1～2） 議長（竹澤会長） 報告事項(1)、(2)について、説明を求めた。	

向佐支援補助員

報告事項(1) 令和6年度市民活動支援センターの登録状況（令和7年1月1日現在）についてを説明した。

松本コーディネーター

報告事項(2) 令和6年度市民活動支援センターの利用状況（令和6年10月～12月）についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(1)、(2)について、委員に意見を求めた。

北倉委員

特定非営利活動法人野田文化研究会の解散について、本当にお疲れ様でした。

新規登録団体について質問がある。番号17番の特定非営利活動法人野田市民室内管弦楽団、活動内容の最後に「子どもの健全育成を図る」とあるが、管弦楽団の方たちが子どもの健全育成を図る、何か具体的な活動があったら教えてほしい。

次に、18番の特定非営利活動法人マ・メールだが、こちらは訪問介護サービスということで、高齢者を対象にしたケアなどをすると受け取った。私の勘違いかもしれないが、以前マ・メールという団体があって、子どもの保育をする団体があったが、その団体と関係があるのか、又は子どもの保育はこの団体はやらないのかという質問をさせていただきたい。

3点目で、フリースペースの利用状況が増えたことに関して、何か理由があったら教えてほしい。

向佐支援補助員

特定非営利活動法人野田市民室内管弦楽団の活動は、子どもの健全育成も含めてステージでの演奏活動がメインになる。単純なクラシックの演奏だけではなくて、ふれあいコンサートという形でお子様やいろいろな方になじみ深い曲も意識して演奏しておられる団体になる。

マ・メールは、会員の何人かは共通していて、過去のマ・メールとの関わりはあったようだが、直接前身であるということではないようで、現在は高齢者をメインに活動されている団体になる。

フリースペースだが、10月から12月というのは、文化祭等で公民館等の会場の予約がなかなかできない時期だったので、フリースペースが空いていない

かという問合せがあり会場の確保に困っている団体に、こちらからフリースペースを使われますかという声掛けをしたので、増えたと思っている。

北倉委員

余り聞いたことがないが、子どもを保育するという団体は現れないか。

向佐支援補助員

現在、子どもの保育を行っている団体で、市民活動支援センターに登録いただいているのは「特定非営利活動法人子育てネットワークゆっくく」と「特定非営利活動法人ゆうアンドみい」だけである。新しい団体が立ち上がったという話は聞いていない。

議長（竹澤会長）

フリースペース、イオンノア会議室の状況、新規登録団体の概要といろいろ御説明いただいたが、地道に団体も増えているということで、今年もいろいろな団体が登場してくるのかなと思っている。

立山副会長

新規登録団体の21番の知能開発協会が、すばらしい活動内容が書いてあるが、困難な問題を検討して答えを導くような内容になっており、それがいろいろな発明、発展の源であるということで高尚な団体だと思う。私も興味があるが、具体的にどのように導き、広報していくのか。

向佐支援補助員

いろいろな発明などをやっている団体で、会員もたくさんいらっしやって、皆さんで集まっていろいろ検討したり、ということをやっている団体で、少し会員数が減ってきているという話は聞いているが、最近では統計学、地球物理学といった分野を子どもに分かりやすく理解させるような、簡単な教材を作ったりして、必要な方に貸し出したり、自分たちで説明したりということをやっている団体だと聞いている。

立山副会長

知能開発的な団体は、今まであったか。

向佐支援補助員

なかったと思う。毛色の新しい団体かと思う。

最終的に何を目指しているのかというと、環境問題などの難しい問題をみんな考えていくことを目標にして、飽くまでも自分が社会に貢献していくことを目標にして、知能開発をするということを考えていらっしゃる団体とのこと

だった。

立山副会長

資料9 ページの活動分類で、「学術・文化・芸術・スポーツ」が一くくりになっている。分類の内訳を見ると、この分類の割合が一番多い。細分化しようという意味ではないが、文化とスポーツは少し違うような気もして、仕分してもっと比率を分散できるような方法はないか。多くの団体がこの分類に寄ってしまう感じがする。今すぐではなくてもいいが、分類を分けて、ある程度細分化できればもっといいのかと思ったが、一般的にこういう分け方をするのか。

向佐支援補助員

市民活動支援センターの登録分類は、特定非営利活動促進法に準じて分類している。「学術・文化・芸術・スポーツ」も、同法でまとまっている関係で、市民活動支援センターの登録分類でもまとめさせていただいている。

議長（竹澤会長）

活動分類、主な活動の団体の内訳は、特定非営利活動促進法に沿って19分野に分類されている。それにのっとって決められているので、それに沿って分類していただきたいと思っている。

ほかに意見がないようなので、報告事項(1)、(2)については、以上とする。

報告事項(3) 第6回こまめカフェの開催について

(資料 報告 3)－1～2)

議長（竹澤会長）

報告事項(3)について、説明を求めた。

渡邊コーディネーター

報告事項(3) 第6回こまめカフェの開催についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(3)について、委員に意見を求めた。

北倉委員

第5回のこまめカフェが21名の参加で大変盛況に行われた様子が報告されているが、紹介できる範囲でいいので、参加した人の中の感想などが分かたら教えていただきたい。

渡邊コーディネーター

当日のアンケートで頂いた内容で、参加者からは「いろいろな団体の活動を

たくさん知れてとても役に立ちました」「団体の方が楽しんで説明し、活動している姿を見て、私もこれから参加してみようと思いました」という意見や感想があった。

一方、団体からは「活動のPRができて有意義だった」「呼びかけが難しいが、新しい方たちにも参加、来てほしい」「市民活動をされている方は、いろいろな活動を兼ねている方も多いので、初めての方の参加も、もっとあるといい」という意見や感想があった。

神山委員

第5回こまめカフェに参加させていただいて感じたのは、横のつながりというか、同じような悩み、活動内容を教えていただいて、非常にためになった。令和7年3月のこまめカフェには我々の団体が参加するので、よろしくお願いします。

立山副会長

前は、一般の方の参加が5名で、団体の方の参加が16名だったが、本来なら一般の方の参加がもっと増えて、新しく入ってみたいなとか、関心を持つ人が参加するべきだと思う。PRする団体が多いと、お互いに交流はでき、別の団体に入ってみようかなという人もいるかもしれないが、どちらかという一般の方の参加を多くするべきである。

次回の人数の20名程度というのは、一般の方が20名ということで、団体の方の参加人数は含んでいないのか。

渡邊コーディネーター

20名には、団体の方の参加人数は含んでいない。

岩井委員

20名にこだわらないで、もし参加者が多かったら大きい会場を探して、全員参加してもらった方がいいのではないかな。

渡邊コーディネーター

前回は申込みが25名あり、当日の欠席が4名だった。前回は6団体をお呼びして開催したが、会場の総合福祉会館第3会議室が、かなり窮屈になったのと、2時間の中では紹介する時間が限られることもあるので、今回は5団体とさせていただいた。

岩井委員

事情はよく分かるが、せっかく参加される方がいらっしゃったら、会場を新

たに探すことは大変だろうが、大きい会場にして、みんなに来てもらいたいのではないかという意見である。

向佐支援補助員

私たちとしては、興味がある市民の方に是非1人でも多く来ていただきたいと思っているので、会場も含めてよく検討していければと思う。

立山副会長

前回のこまめカフェをきっかけに、新しく入られた方はいるか。

向佐支援補助員

毎回こまめカフェを実施すると、新しく入りましたという報告があるが、今回は残念ながらおらず、私たちも悔しく思っている。

辻委員

私も第1回のこまめカフェに参加させていただいて、そこで1名の方が入っていただいた実績がある。第1回のとくと今回の写真を見ると少し違うと思うのは、各団体の皆さんが絶対に入会してもらおうということで、結構仕込みがあった。飾り付け、自分たちのPR道具を持ち込んだりしたが、今回はいかにも説明会という形だったので、逆に言うと、これから募集をしたいと思っている団体の中には、こまめカフェはどんな雰囲気で行っているのかということを見たい方もいるのではないかと思う。私も、今のこまめカフェはどんな感じなのかということ、改めてこちらのチラシを拝見して思ったから、そういう意味ではオブザーバー、見学者という形はどうか。人数にもし許容があれば参加して、次回は参加してみようかと思う方もいるかもしれないので、そういう参加枠も活動紹介団体とは別に設けていただければ参加したいなと思っている。

向佐支援補助員

こまめカフェは、団体の方、運営協議会委員の参加も大歓迎なので、是非オブザーバー、見学、参加という形でもお越しいただければと思う。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(3)については、以上とする。

報告事項(4) 学習会（助成金・パソコン）の開催結果について

（資料 報告 4）－1～3）

議長（竹澤会長）

報告事項(4)について、説明を求めた。

荒井コーディネーター

報告事項(4) 学習会（助成金・パソコン）の開催結果についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(4)について、委員に意見を求めた。

岩井委員

市民活動団体を継続してフォローする効果があると思うので、大変だろうが
よろしく願いしたい。

辻委員

パソコンに関して、以前の会議に出席したときに是非お願いしますということ
で申し上げたが、市民活動支援センターが入っている建物だと、W i - f i
の設備が1階のフロアしか使えないということで、1階で他の会議中のとき、
2階以上での会議中に使いたいときに、非常に不便に感じていることだった
が、何か対策は打たれたか。例えば、貸出し用のW i - f i の機器材を貸し出
すとか、全館に張り巡らさなくてもできるような備品があるというのは聞いて
いるが、いかがか。

須賀市民生活課長

今回は公民館で実施したのでW i - f i 設備は大丈夫だった、W i - f i 設
備がない場合は、移動式のW i - f i を持っている市の所属があるので、そう
いう部署と連携して用意する方法も考えられるので、参加者の希望があれば答
えられるように対応していきたい。

辻委員

公民館などで利用者に貸し出すような、電源をコンセントに入れば使える
W i - f i 器具もあるが、そういった物を置くことをお願いしたいと思う。

須賀市民生活課長

確認したところ、中央公民館は1階しかW i - f i 設備がなく、全館での利
用はできない。先ほどお話しした移動式のW i - f i は災害用のもので、数が
限られているので、事前に市の事業で実施する場合で、もし空いていれば利用
が可能というもので、個々に活動する団体に貸し出すサービスはしていない。

辻委員

是非予算を取っていただきたいと思う。会議内でいろいろ検索する必要性が
すごくあるので、私は隣の市の公民館でW i - f i を使う場合は、電気店で売

っているようなコンセント付きの簡単な物を貸してくださるので、災害用とは別に各公民館にあるといいと切に思うので、検討をお願いしたい。

須賀市民生活課長

市役所庁舎も含めて、少し遅いかかもしれないが、ここ数年でW i - f i が普及してきている。W i - f i を広げてほしい、使いたいという声を元に設置していると思うので、担当課である企画調整課に今の御意見を伝えて、設置がいつになるとか、必ず設置するとはこの段階では言えないが、声を届けさせていただく。

北倉委員

私もその意見に賛成である。会議室では、Z o o m で他の方との交流もできるなどメリットが大きいので、是非W i - f i の整備を進めてほしい。

議長（竹澤会長）

パソコン初心者講座で、無料のデザインソフトを非常に有効的に使っているということで、参加した方には非常に抵抗がなく、自然にやってみようかな、今度はもっとすごいことをやりたいという気持ちに変わっていくようなことも考えて、いろいろ工夫していただいていると思っているので、実際に取り組んでいる方の心の変化が分かりましたら、御連絡いただければと思う。

立山副会長

民間助成金の今年度の採択金額はこのとおりだと思うが、実際に申請した金額と採択された金額はイコールか。

荒井コーディネーター

申請より少ない場合もあるが、大体は申請額で採択されている。

北倉委員

15 ページのパソコン学習会は、アンケートでこんな声があったという声を載せていただいているので、参加者の感想がよく分かって、そのときの参加者の気持ちが伝わってくるが、13 ページの助成金学習会にはそういう表記がないので、参加者がどのように感じたのか、参加者のアンケートの一言を、2 行程度でいいので簡単に記していただくと、この学習会は成功したと思うことができる。私は、何かの会を行ったときの成果は、参加者の声にあると思っているので、是非それを盛り込んだ紙面にさせていただきたいと要望する。

荒井コーディネーター

とてもいい御意見で、全くそのとおりである。これからそのようにしたい。

立山副会長

チラシは、自分たちで作れる。どんどん皆さんにやってもらって、自分たちで作るような形にした方がいいと思う。そのためにパソコン学習会をやっていると思うから、是非お願いしたい。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(4)については、以上とする。

報告事項(5) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2024」第7回市民活動
元気アップふえすたの開催結果について

(資料 報告 5))

議長（竹澤会長）

報告事項(5)について、説明を求めた。

向佐支援補助員

報告事項(5) 「のだ市民活動ふれあいフェスティバル2024」第7回市民
活動元気アップふえすたの開催結果についてを説明した。

議長（竹澤会長）

報告事項(5)について、委員に意見を求めた。

北倉委員

目標と成果と変更点は分かったが、市民活動支援センター又は市民生活課として、この行事についてどんな評価を共有しているかを聞かせてほしい。

須賀市民生活課長

資料でお配りしているのは市民活動元気アップふえすたの資料なので、市民活動元気アップふえすたについてお話をさせていただくと、目的を二つ書かせていただいている。市民活動への関心を広げるのが一つと、交流を図るのが一つとなっている。先ほどの説明のとおり、参加者数は増加しているが、目標に届かなかったところもある。

参加者同士の交流は、ある程度図れているという印象は持っている。それは、参加者の終わった後の感想、実際に参加された方の意見を聞いて、交流は図れているかなという感想を持っている。ただ、参加者 995 人のうち、スタッフ、出演者が 608 人で来場者が 387 人となっている。市民活動への関心を広げるという面では、来場者数をもう少し増やしていけないかと思っている。先ほどの説明のとおり、当日はフードフェスタ、公民館まつりなどの他の行事の影

響があった可能性もあるが、例年と比較して突出して少なかったかという、そういうわけではないと思うので、来場者数をいかに今後増やしていけるかというのが、この行事の目的である関心を広げることにつながると思うので、いいところもあったが課題もあったので、今後どうやって参加者増につなげていけるかというのは一つ課題とはしてある。来年度の開催で、何か良い策を打てればというふうには思うが、現在こうしていくという明確なところまでは行き着いていないが、そういうところは課題だと思っている。

北倉委員

70 点くらいだったという印象でよろしいか。

須賀市民生活課長

100 点ではなく、なかなか点数化するのは難しいが、課題があるので、おっしゃるように完璧にできました、というところまでは至っていないと思っている。

北倉委員

これからどうしていくかということを考えたときに、私は成果、結果は参加者の言葉にあると思っているので、その参加者がどうだったかということは、説明の中でも少しあったが、来場者数だけをスタッフ、出演者数約 600 人と同等に上げようと思うのは、少し私は難しいと思う。来場者数を上げようと思ったら、スタッフ、出演者数を上げるという方法になると思う。知り合いが知り合いを連れてくる。全く知らない人が来るのは、とても難しいことである。誰かに声をかけられたから、誰かが友だちだから、という理由でスタッフ、出演者数が上がると来場者が上がると思う。1,000 人がマックスの人数だと言われてしまうと、もうこれはマックスの行事という取り方になるので、100 点だったと結果を持つと思うが、それが 70 点だったとしたら、どういうふうにしようかという考え方の一つのきっかけになると思ったので、主催者側としては、何点だったのかを知りたくて、どんな評価だったのかということ質問した。

市民活動元気アップふえすたと同じ日に、野田ガスホールで開催されていた「福まち・じんけんシアター」に参加した。とても良い内容だった。397 人もいたかなというほどパラパラな感じの参加人数だったが、大変良い映画と、30 分程度、福祉関係の女性の方がお話していた。野田市の精神障がい者の現状、グループホームのこと、市内にはいろいろな方が住んでいらっしゃるから、みんなが幸せに暮らしたいと思ったならば、少数派の人を排除しないということ

を広く皆さんに伝えるために、こういうイベントが必要だと思っている。このイベントを知ったときに、これは参加しなくてはと思って参加したが、来年もしこういう福祉との大きなイベントで合体できるのであれば、合体を望むという意見である。

議長（竹澤会長）

私が個人的に一番良かったと感じているのは、のだ市民活動ふれあいフェスティバル2024の事前案内パンフレットである。非常にスタッフの皆さんが御苦労して、色合いから健常者以外の方にもアピールできるように、喜んでもらえるようにということを努力されて作って配布しているが、何でもない人からすると、当たり前だと思う。市民としては、そういう市の苦労も理解できるように、市民に分かってもらうということではなくて、今回のフェスティバルでも、市も努力していることを分かっていただけるようなことも必要であると思う。それが当たり前ということではなくて、市民も昨年とこういう部分が違っている、という見方も必要かと思っている。実際にそういう視点で見ると、パンフレットの見方が変わる。昨年と今年での変更だから、それをアピールしていくことも必要かと思うので、是非私たちもそういう努力もしていることをアピールしていければと思っている。

須賀市民生活課長

今回、パンフレットがこれまでと比べてカラーにするなどの改良をするきっかけになったのは、以前の市民活動支援センター運営協議会の場で、以前のパンフレットはA3版両面で凝縮した形だったので、非常に見づらいという御意見を皆さんから頂きました。それがきっかけでもあり、カラーにしていきたいと思いますということで実施した。カラーにしてページを増やすに当たり、いろいろな案があって、例えば色彩、文字を少し目立たせるなどいろいろあったが、市民活動ふれあいフェスティバルということで、福祉団体などと協力しながら開催するということ、そして視覚障がいの方にも見やすい色合い、構成を目指して、今年はこのような形を取らせていただいた。中には、もう少し他の色を使ってという御意見があったことも承知しているが、そういった配慮もさせていただきながら今年はこのような形にしているので、この場をお借りして御報告させていただく。

宮澤市民生活部長

今回のパンフレットは、今のような工夫をしたが、それをアピールはしてい

ない。例えば、パンフレットの下の方に視覚障がい者の方にも見やすい色合いにしていると記載するなどのコメントを入れれば、もっと良かったのかなということもある。

議長（竹澤会長）

パンフレットについて考える企画の段階で、そういう話題が出たのでは。

高梨係長

市民活動支援センター運営協議会の中では、視覚障がい者のことを考えていたわけではなかったが、社会福祉協議会で原案を作っていたときに、視覚障がい者の方に配慮して、こういう色にせざるを得ない状況なので、御了解いただきたいということだった。今回はやさしい色合い、濃い色を使わない、暗い色を使わないということだった。

辻委員

色の微妙な違いで色が重なっていると読みづらくなってしまう方がいることは、この場で知った次第で、そういう配慮が絶対に必要だということも分かったし、そういうことを一行でも入れると、これを見た人もそういう認識を持つことはとても大事なことで、どんどんやっていいと思う。

市民活動をやってみようかと言ったときには、子育てが一段落した、会社を卒業したなど、ある程度年代がどうしても高い方たちが対象になってしまう。それはそれでとても大事なことで、家庭だけ、地域だけとは違う人との交流ができる場が、自分が感じていた世界以外の居場所になるということで、市民活動はとても大事な活動だと思っている。知らなかった人が出会って、趣味、自分のやりたいことを一緒にやっていくところの達成感、過程で、ここが私の新しい居場所だと思えることは心強いことだと思う。

もう一つ新しく踏み出すのであれば、市民活動に関心を上げるときの年代。私は、子育て世代にもう一つ興味を持ってもらって、今はできなくても、子育てで大変な年代の人たちに対し、子どもをほっこりさせるようなイベント、活動をしている団体があることをPRする場でもあるので、パンフレットでの事前案内でも子育て世代、野田市が子どもたちのふるさとになっていくという考えを育てるため、市民の意識を持ってもらうためにも、子育て世代にPRするアイデアも考えなくてはと思っている。と申しますのは、私どもは紙芝居の活動ということで、お子さんをターゲットにした紙芝居の時間と、人形劇のグループと、かるたのレクリエーションの方たちと一緒にやったが、どうしても子

どもと一緒に楽しめる場が少なかったかなということで、去年は来場者数が減ってしまった。来てくださった方は熱心に楽しんでいたが、やはり子育て世代へのPRもできるようなパンフレット、言葉が入っているといいかなと思った。

立山副会長

スタンプラリーの参加者が、昨年より少なかったということで、場所が10箇所だったので回るのに大変だったことなどが理由で少ないと言っているが、私は別な角度で言えば、今回10箇所回ってもらったのは、多いか少ないかは別として、どんなイベントをやっているのか、どういう内容なのかという、見る機会ができたと思う。通り過ぎてただ散歩して帰ってしまうよりも、実質の参加人数は上がっているのではないかと思う。参加者が少なかったということは言えるかもしれないが、中身はいろいろ実際に見て触って、体験した方がスタンプラリーに参加した。これは良かったなと私は思っている。参加人数だけの問題ではない気がするので、その辺はもう一度検証してもらいたいと思う。

須賀市民生活課長

スタンプラリーの件は、こちらにも声が届いている。10箇所回るということで今回はやらせていただいた。スタンプラリーのそもそもの目的は、スタンプラリーで楽しんでもらうというのが一つあるが、スタンプラリーをきっかけにいろいろなところを見ていただきたいというのが大きな目的である。ただ、10箇所もあるということで、時間的な制約がある方が回り切れないという意見もあったので、いろいろなところを見て回るという目的を達成できる範囲で、箇所数についてなど、見直しも含めて来年度のやり方を検討させていただく。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようなので、報告事項(5)については、以上とする。

議案(1) 令和7年度市民活動支援センターの事業計画（案）について

（資料 議案 1））

議長（竹澤会長）

議案(1)について、説明を求めた。

須賀市民生活課長

議案(1) 令和7年度市民活動支援センターの事業計画（案）についてを説明した。

議長（竹澤会長）

議案(1)について、委員に意見を求めた。

岩井委員

8月の協働のまちづくりセミナー、是非盛会であってほしいと思っているが来年度はどんな構想で考えていらっしゃるのか。

須賀市民生活課長

今年度は、外部の講師をお招きしてセミナーを開催した。開催の目的が、市の職員が市の職務を遂行するに当たり、市民活動登録団体をメインに協働、という考えがなかなか形成されていない。仕事をするに当たっては、業者に委託して業務をお願いすることはあるが、セミナーを開いて、まずは市民活動を知っていただいて、他の市ではこういう協働作業をやっているということを紹介させていただきながら、何かの業務を実施するときに、これまでの考えにプラスして、市民との協働が頭に浮かぶようなことにつなげていきたいと思っている。今年度は、経験豊かな外部講師にそういったお話をお願いしたが、まだ浸透しているとは言い切れない。全職員を対象に実施したわけではないので、講師、内容については考えるが、来年度も同じような内容の趣旨で実施していきたいと考えている。

岩井委員

健康スポーツ文化都市を実現するために、パワーが足りない、知識が足りない。そういうときは市民の皆さんに声をかければ、この町には私は資産があると思っている。そういうことになっていただければ有り難いと思っている。

議長（竹澤会長）

この企画が出たときに、副市長からは職員もよく分からないところがあると言っていた。この話を聞いたときに、私もよく分かっていなかった。逆に、これから盛り上げてやっていきましょうというスタンスで、皆さんにお力添えを頂きながら進めていく。前回のセミナーから半年近くたったが、こういう形でこれから進んでいくことは考えられる。なかなか形が分からない部分もありながら、皆さんにいろいろ御意見をお伺いしながら、やっている部分もあると思う。職員にも、こういう迷った部分があると正直に申し上げていただいているので、委員の皆様方も御理解いただいて、協働の一步が価値あるものの中に組み込まれていかれるように進めていっていただきたい。協働、協定という話が出てきてから大分時間もたっているが、まだ迷っている部分、もっと勉強して

いく部分もあると思う。近隣市で進んでいる部分もあるから、その辺の情報を参考に取り入れていくことも必要かと思っている。

岩井委員

もっと市民の活力を使っていこうというのは、根気よく数を出していけば変わってくると思うので、是非やってみていただければと思う。

宮澤市民生活部長

市民協働という言葉は、かなり前から当たり前のように使っている。総合計画、行政改革大綱にも必ずといっていいほど出てくるが、市民協働の例として出てくるのが自治会との協働で、広がりがない。今やっている市の事業の中でも、市民活動支援センター登録団体で言うと野田市国際交流協会などをお願いしている部分は一部あるが、そこにとどまってしまっている。私も含めて、市民協働とはどういうことなのか、そもそも何なのかというのが分かっていないのもあるが、会長がおっしゃったように、他の市ではこんなことで協働しているという事例があると思う。これまでは全部自分たちでやらなくてはとか、コンサルタントに頼まなくてはとか、外部委託というだけではなくて、市民団体も選択肢の一つとして考えられるような事例を、こちらとしてもどんどん紹介していきたいと思う。長年この考えでやってきているので、今日の明日ですぐ変わる感じはないと思うが、引き続き続けていきたいと思う。

北倉委員

野田市が健康スポーツ文化都市宣言を行ったことによってなのかなと思っているが、興風会が狂言のワークショップ、お芝居を見せるとか、今年度だと人形劇団プークを呼んで子ども向けの人形劇を開催するとか、野田市文化会館が鑑賞会、リベットボタンを呼んで親子のミニコンサート、ロビーコンサートに定期的に取り組んでいるというのが、ここ2年くらいで私の目にとどまってきている。ということは、野田市文化会館の予算でそういう方たちを呼んだり、興風会の予算で親子向けの鑑賞会に取り組んだりしているという、ちょっとした風が吹いている気がする。余り難しいことは私には分からないが、少しずつ変化が訪れてきているのではないかと感じているので、何か変わってくるのではないかとと思っている。

議案(2) 市制施行 75 周年記念市民アイデア事業について

(資料 議案 2) - 1 ~ 3)

議長（竹澤会長）

議案(2)について、説明を求めた。

須賀市民生活課長

議案(2) 市制施行 75 周年記念市民アイデア事業についてを説明した。

議長（竹澤会長）

議案(2)について、委員に意見を求めた。

北倉委員

今の説明で、市制施行 75 周年記念市民アイデア事業をやっていきましょうということが可決されたのか。

須賀市民生活課長

今回、市制施行 75 周年ということで、市民アイデア事業を募集する。全ての団体がいいですよというわけではなくて、先ほど御説明しましたとおり、審査をさせていただく。その審査を市民活動支援センター運営協議会の委員の皆様をお願いしたい。審査で特に問題ないと承認された場合は、例えばロゴマークの使用、のぼり旗を貸し出して御活用いただいて、イベントの一助にする、75 周年を盛り上げていくようなことができればということで考えており、皆様にはその審査をお願いするという説明である。

北倉委員

審査に当たっては、公共の福祉に反しない限り、承認するということか。

須賀市民生活課長

資料 3 ページに、実施要領（案）を添付させていただいている。第 2 条第 3 項に対象としない事業を、第 1 号から第 5 号まで書かせていただいているが、これに該当しないかどうかの一つの大きな目安となってくると思うので、申請を市民生活課で受け付けて、市民活動支援センター運営協議会に申請がありましたということで御提示させていただくので、実施要領を元に審査していただくという流れになる。基本的には市民の活動なので、承認しないという結果は余り考えられないが、中には不承認という可能性もあるので、第 2 条第 3 項に対象としない事業を書かせていただいているが、できる限り市民生活課で申請を受けたときに、例えば第 4 号に規定する暴力団かどうかは分からないと思うので、事前に警察に確認した結果も提示して、審査に支障がないように事前の準備はさせていただきたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。

辻委員

市民のアイデア事業ということで市民活動支援センター運営協議会に話が来ているが、市として何か大々的なイベントを考えているのか。

須賀市民生活課長

市が実施するものは、市が冠事業として実施するものになるので、今回の対象とさせていただいているものは、市内に活動拠点を置かれる団体の皆様が何かイベントをやるときに、75 周年〇〇事業とか、のぼり旗を立てるとか、そういったことを御希望される場合に、申請を頂ければどうぞ使ってくださいというものである。

辻委員

私たちが恒例でやっているイベントがあるが、今年は特に 75 周年記念だから、のぼり旗も申請すれば借りられるということか。それぞれの団体がイベントを申請すれば承認していただけるし、例えば何かのグループで 75 周年だから何かやりましょうか、みたいな形のものもいいということか。

須賀市民生活課長

そのとおりである。承認されれば、のぼり旗はもちろん、75 周年記念事業という名称、ロゴマークの使用などが可能になる。

宮澤市民生活部長

分かりにくいと思うが、75 周年記念事業として市が主催してやる事業と、冠事業は市がやるものもあれば、市民団体の方々にやっていただくものもある。今回の審査は、落とすための審査ではなくて、先ほど申し上げた信用、品位を損なわない、などを確認していただくことになる。申請のあった事業に 75 周年記念という冠をつけていただく、のぼり旗を置く、ロゴマークを付けるというのと、あとはまちづくり支援事業といって、市で団体に補助金を出して、やり方を考えてもらいながらやってもらうという、3 本立てで考えている。

委員の皆様に審査をお願いしたいのは、これから募集をかける冠事業の市民からの提案を受けた事業である。当然事務局側でも確認するが、再度確認をしていただきたいという話であるが、アイデア事業の対象が、要領第 2 条に書かれている。例年やっている事業の場合は、全く同じではなくて、一工夫していただいて、これまで子ども向けだったのを一般の人に対象を広げるなどをやっていただくということで提案をもらう。その提案について、要領第 2 条第 3 項に書かれている公序良俗違反がないことなどを確認していただいて、承認という流れになる。それを一度に募集、審査というのはなかなかできないと思うの

で、何回かに分けて、市民活動支援センター運営協議会の開催のときに審査を、ということで考えている。健康スポーツ文化都市宣言事業では、例年どおりの事業でも冠が付くが、75周年記念事業は一工夫ということでお願いしたい。

なお、冠事業に市からの補助金は出ない。例年の事業、新規事業も団体の中で希望があればやっていただくのは非常に有り難く、申請いただくことは可能だが、例年の事業の場合は、例年プラス一工夫を加えたものでエントリーしていただいてということで、ロゴマークを使える、のぼり旗を掲げて市内を盛り上げようという趣向である。

北倉委員

野田子ども劇場は、教育委員会の後援を頂いての活動もやっているが、後援を頂いた場合は小学校、中学校に大変信頼が厚く、児童、生徒にチラシを配布していただけるという実績がある。教育委員会の後援を取らなくても冠事業がついていけば、小学校、中学校、幼稚園に快くチラシの配布をしていただけるのか。

須賀市民生活課長

資料2ページに「市又は教育委員会が共催、後援をしている事業は、申請対象外です」と書かせていただいている。申請対象外というのは市、教育委員会が共催、後援している事業については、この申請を頂かなくても支援はできるということになってくるので、例えばロゴマークが使える、のぼり旗も貸し出せる状況なので、わざわざ申請していただく必要はないですよという状態になっている。今御質問のあった事業が共催、後援されているものであれば、申請いただかなくてもそういったことはできるという仕組みになっている。

北倉委員

心配しているのが、学校が後援と同等又はそれ以上の行事であると認識して子どもたちにチラシを配布していただくことがスムーズであるか、という点である。

宮澤市民生活部長

間違いなくスムーズである。市民生活課長が申し上げたのは、わざわざアイデア事業として申請するのではなくて、引き続き共催、後援についてはそのまま承認を受けてもらって、そうすればロゴマーク、のぼり旗は使えますという意味である。

高梨係長

市、教育委員会で共催、後援をしているので、承認をした部署で対応する形になる。

議長（竹澤会長）

ほかに意見がないようであれば、議案(1)、(2)について承認いただけるか。

各委員

異議なし

議長（竹澤会長）

異議なしとのことなので、議案(1)、(2)のとおりとする。

高梨係長

次回の市民活動支援センター運営協議会の日程について、令和7年3月下旬を予定している。

議長（竹澤会長）

会議の閉会を宣言した。